

令和3年度 中区地域力向上事業 事後評価

以下の項目に照らして評価を実施する。  
 1) 中区らしさ…事業の実施にあたり、各区固有の人材、資源などを活かせたか。より発展、強化させることに繋がったか。  
 2) 事業目的の達成度…提案時点で掲げた目的をどの程度達成したか。  
 3) 財政支援の必要性…市が補助金を支出して行う必要性。(財政面で市の支援を必要とする事業であるかどうか)  
 4) 費用対効果…事業実施により得られた効果と、かかる費用のバランスは適切か。

■助成事業

事業名 実施者	目的	事業内容	総事業費 [補助額] (円)	採用 回数	中区 らしさ A(高い) B(普通) C(低い)	事業目的 の達成度 A(高い) B(普通) C(低い)	財政支援 の必要性 A(高い) B(普通) C(低い)	費用対 効果 A(高い) B(普通) C(低い)	評価
1 「軽トラはままつ出世市」 軽トラはままつ出世市実行委員会	中心市街地の事業者団体や中区中央地区自治会連合会と協力し、浜松商工会議所とJAとびあ浜松が中心となり、「軽トラ市」を開催。中心市街地の活性化を図る。	【期間】 令和3年11月28日(日) 【場所】 鍛冶町通り、肴町通りの一部 【内容】 ・メインストリートである鍛冶町通りを歩行者天国とし、軽トラ市を開催。 ・浜松、浜名湖地域の資源(農産物・海産物・特産品など)を広く集め、生産者等が直接販売や広告宣伝を行うと共に、浜松市中心街の各商店街と連携したイベントを実施する。 ・鍛冶町通り(軽自動車30台)、肴町通り(肴町ストリートパザール:ワゴン出店7事業所) ・団体スタッフ39人、参加者約13,000人	2,684,458 [626,000]	3	A	A	B	A	・新型コロナウイルス感染症防止のため、規模を縮小しての開催となったが、中心市街地の活性化を図り、地場産品をPRする場として多くの方に来場いただけた。 ・鍛冶町通りを一方通行にする事による密集の回避、手指の消毒やマスク着用の呼びかけ、配布ちらしにてコロナ見守りシステムへの登録をお願いする等、コロナ対策も徹底して行っており、安心安全に配慮がなされていた。 ・今年度で補助事業としては最後となるが、出展者及び来場者の双方において満足度の高い事業であるため、まちなかの活性化を図るイベントとして今後も継続して実施していきたい。
2 「第4回浜松Open Art」 浜松Open Art	アートと街と市民と作家との創造的なコミュニケーションの場をつくる。アートシーンにあふれた街を街の方と協力し、提案する。創造都市浜松の中心地でアート活動を行うことで、豊かな都市形成、人材形成につなげる。作家ならではの発想でよりプライドを持ち、生き生きとしたライブ活動を提案する。	【期間】 令和3年10月23日(土)~10月31日(日) 【場所】 ゆりの木通り商店街・肴町商店街・有楽街・板屋町・浜松城公園 【内容】 ・街中協力店舗や空き店舗をギャラリーと見立て、作家と店舗が協力して、作品の展示・販売を行う「浜松街中アートギャラリー」と、浜松城公園の自然環境を活かしたランドアート作品の展示を行う「浜松城公園野外アート展」を実施。 ・準備段階から作家に街や公園に通ってもらい制作を進めるスタイルをとることで、街や店舗と作家が良いコミュニケーションを図る。 ・スタッフ6人、参加者80人、入場者約17,000人	919,232 [228,000]	3	A	A	A	B	・コロナ禍での開催ということもあり、参加者やイベント規模を縮小したが、作品展示、演劇公演、シンポジウムの実施、音楽ライブ、ワークショップの開催と数多くの催しを実施し、アートを通しての街づくりに大きく貢献した。 ・店舗の方から来場者に気軽に声を掛け、展示作品を紹介していたり、作家も展示先の店舗にちなんだ作品を作成していたりと、作家と店舗の交流が図られており、双方の繋がりが深まっていた。 ・今年度は板屋町でも開催する等、事業に広がりが見られる。開催場所が広範囲となってきているため、回遊性を持たせる工夫が必要である。 ・補助事業としては今年度が最後となるが、今後も多くの方が気軽にアート作品に触れる事ができ、中心市街地の活性化にも繋がる事業を期待する。
3 「第10回浜松ジオラマグランプリ」 特定非営利活動法人はままつ未来会議	優れたジオラマ作品を鑑賞する環境の提供とコンペティションの開催により、中区及び浜松市の文化振興と中心市街地の活性化を目的とする。「ジオラマの聖地・浜松」としての情報発信と「ものづくりの街・浜松」のイメージ・ステイタス向上を果たす。	【期間】 令和3年11月4日(木)~11月7日(日) 【場所】 ザザシティ浜松 西館2階 特設会場 【内容】 ・一次審査通過作品(37作品)を会期中に一般公開し、著名ジオラマ作家による審査および一般来場者の投票で入賞、表彰を行う。 ・上位受賞作品は、山田卓司氏作品展示の場である「浜松ジオラマファクトリー」内で展示。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、SNS(Twitter、Facebook、ブログ、HP)による画像配信、表彰式の動画配信を実施。また、リモートでの投票方法も導入した。 ・スタッフ9人、出展者37人、来場者約1,000人	585,878 [139,000]	3	B	A	B	A	・緊急事態宣言に伴い開催時期を8月から11月に変更したことにより、出展数が例年より少なくなったが、秀逸な作品が多く、見応えがあった。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、広報活動を縮小したにも関わらず、外国の方も含め、多くの方が来場していた。また、会場へ来られない方のために、SNSによる画像配信や表彰式の動画配信の実施、リモートでの投票を実施する等、新しい生活様式を考慮した工夫も見られた。 ・会場であるザザシティ浜松が大型店舗の撤退とコロナ禍による人出の減少傾向にある中、優れた作品を鑑賞できる環境の提供とコンペティションの開催により、文化振興と活気ある街づくりに大きく貢献した。中区をテーマにした作品枠を創設する等の工夫で、より中区らしい事業になったのではないかと。 ・本年度で補助事業としての開催は最後となるが、毎年恒例のイベントとして、今後も継続的に開催いただける事を期待する。
4 「ストリート陸上@まちなか」 ストリート陸上@まちなか実行委員会	「まちなか×スポーツ」を提唱し、スポーツ振興の機運醸成ならびにスポーツイベントを活用しての中心市街地活性化を図る。	【期間】 令和3年11月3日(水) 【場所】 浜松市ギャラリーモールソラモ 【内容】 ・トップアスリートを招聘しての競技のデモンストレーション、スポーツコンテスト(30m自動計測機/タータン走路準備)、かけっこ教室、大学生とのコラボレーションによるバスケットボール体験、アジリティトレーニング体験等を行う。 ・新企画として、フードコーナーの設置やアスリートパフォーマンスを実施し、「滞在型」のイベントとする。 ・スタッフ50人、参加者300人(入場者数1,000人以上)	1,651,379 [412,000]	3	A	A	B	B	・前回の新型コロナウイルス感染症対策を踏襲しつつ、新しい取り組みも実施し、スポーツ振興および中心市街地活性化の一躍を担うイベントを開催した。 ・トップアスリートを招聘した「集中集客型」から、飲食ブースの設置、大学生とのコラボレーションによるスポーツ体験、アスリートパフォーマンス企画等の「滞在型」イベントへと進化させ、過去最高の来場者数、入場者数となった。 ・今年度で補助事業としては最後となるが、企業協賛やクラウドファンディング等、自主運営で事業を継続させていくための工夫も積極的に行っている。過去の収支を参考に、事業内容とかかる経費を精査いただき、来年度以降も自主事業として継続的に実施いただける事を期待する。
5 「スマイルスポーツクラブ」 スマイルスポーツクラブ	子供の放課後の遊びが、三間(時間・空間・仲間)で失われてきているため、平日の放課後の居場所づくりとして、大学生がスタッフとなり、遊び・スポーツを楽しむ場を提供する。また、休日を利用して親子でスポーツを楽しむ機会を提供する。	【期間】 令和3年10月6日(水)~令和4年3月23日(水) 【場所】 浜松学院大学体育館他 【内容】 ・10月~3月まで、毎週水曜日の午後4時30分~午後6時の90分間、体育館にて、中区在住の小学生を対象に、仲間づくりと運動の楽しさを味わうことをねらいとしたスポーツクラブを開催。大学生の司会進行のもと、鬼ごっこ、人間関係作りのレクリエーション、ボール遊び等を通して、子供の居場所づくりを進めた。 ・休日を利用して、コマ回し、紙飛行機、紙でっぼうなど身近なものを利用して遊ぶ伝承遊びと、走ることを思いきり楽しもうをテーマにした陸上を、外部講師の指導のもと親子対象に開催。 ・スタッフ210人、参加者642人(延べ)	103,736 [41,000]	2	B	B	B	A	・当校は教員免許の取得ができるため、関係学科の1年生を毎回5名程度スタッフとして関わらせる等、学生中心の運営となっており、学生にとっても将来のための貴重な体験の場となっている。 ・実施する遊びやスポーツは毎回異なるものを学生たちが考えており、学年・性別等を問わず、みんなで楽しく遊べるものが取り入れられていた。放課後の居場所づくりとして、また、コロナ禍で活動を制限されている子供達のストレス発散の場として、貴重なものである事が伺える。 ・コロナ禍の開催であるが、感染症対策もしっかりと行っており、また、細目に水分補給や休憩も挟んだ安全な運営がなされていた。 ・活動場所や学生スタッフを増やす等、参加したくてもできない子供達に対してのアプローチを検討していただき、活動の場を広げていきたい。